

# 付着生物ラーバ情報

## ユウレイボヤの産卵はこれから

### 1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

#### (1) ユウレイボヤ、キヌマトイガイ

ラーバは見られていません。

#### (2) ムラサキイガイ、オベリア類（クラゲの仲間、通称クサ）

ラーバとクラゲは小湊沖で1.3個体/m<sup>3</sup>見られました。

#### (3) アミクサ（海藻、通称クサ）

小枝は久栗坂沖で0.6個/m<sup>3</sup>、小湊沖で1.3個/m<sup>3</sup>見られました。

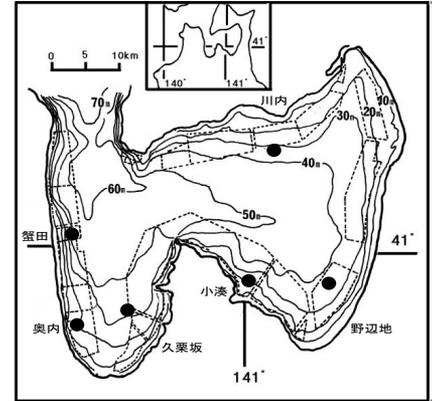


図1 ラーバ調査地点

### 2 今後の見込み

**ユウレイボヤ**は水温20℃以下で産卵します。

現在、陸奥湾内の中層の水温は21℃前後と高いので、今月下旬以降にラーバの出現と付着が始まるものと思われます。また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着する**ことが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

**ムラサキイガイ**ラーバは4～7月まで出現していたので、稚貝分散時に小さい個体が多く見られる可能性があります。平成30年10月～令和元年10月までのラーバ調査、付着量調査から、**秋から冬生れのラーバの付着はほとんどない**ことが分かりました。

**オベリア類、キヌマトイガイ、アミクサの付着は年明けになるもの**と思われます。

### 3 ユウレイボヤの付着予測

西湾（久栗坂）と東湾（小湊、野辺地、川内）における10月～翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数、12月～翌年3月までの青森ブイ（西湾）または東湾ブイ（東湾）の水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、**平均水温が8℃**

**以上もしくはラーバ累積出現数が5個体/m<sup>3</sup>以下であれば付着量が少ない**ことが分かりました（図4）。

ちなみに青森ブイの平均水温の平年値は8.1℃、東湾ブイの平年値は5.6℃です。

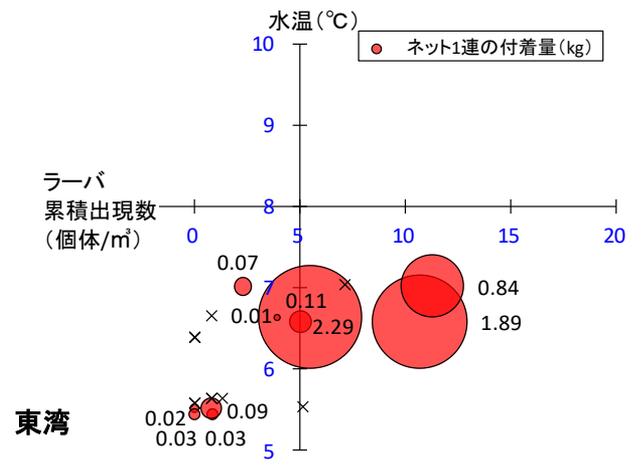
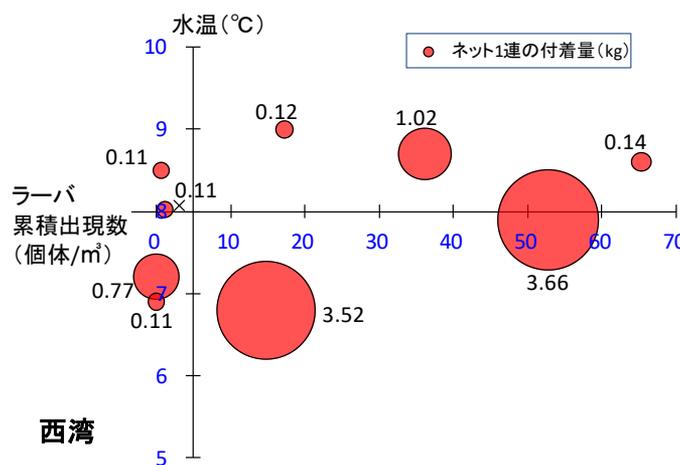


図4 平成16～30年のユウレイボヤのラーバの累積出現数、青森ブイまたは東湾ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係（○印の中心はプロット位置、面積は付着量、×は付着量が0kg）

表1 ラーバ等の出現状況

| 調査地点 | 調査月日    | ユウレイボヤ | ザラボヤ | キヌマトイガイ | ムラサキイガイ | オベリア類 |     | アミクサ |
|------|---------|--------|------|---------|---------|-------|-----|------|
|      |         |        |      |         |         | クラゲ   | 小枝  |      |
| 久栗坂沖 | R1.10.7 | 0.0    | 0.0  | 0.0     | 0.0     | 0.0   | 0.0 | 0.6  |
| 小湊沖  | R1.10.7 | 0.0    | 1.3  | 0.0     | 1.3     | 1.3   | 1.3 | 1.3  |
| 川内沖  | R1.10.7 | 0.0    | 0.0  | 0.0     | 0.0     | 0.0   | 0.0 | 0.0  |

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

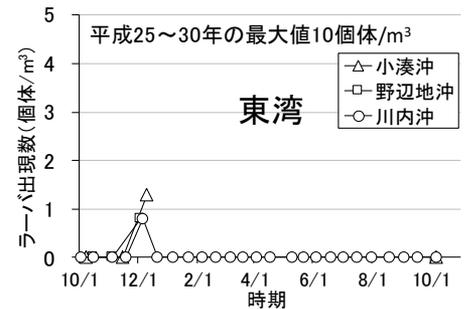
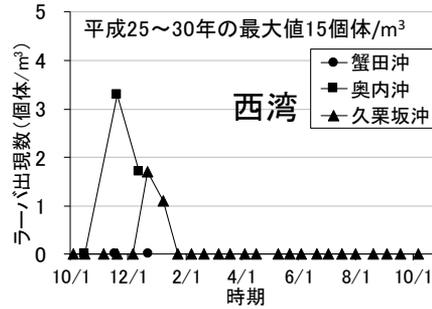


図2 ユウレイボヤ出現数の推移（平成30年10月～令和元年10月）

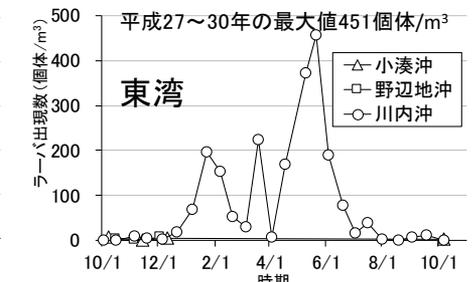
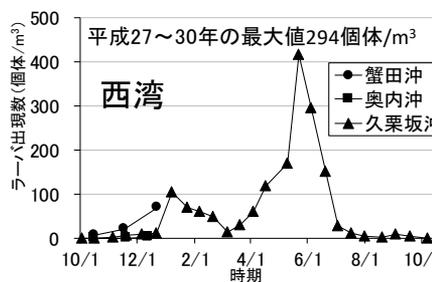


図3 ムラサキイガイ出現数の推移（平成30年10月～令和元年10月）

